

平成30年6月25日(月)

家庭教育学級

世田谷区立東玉川小学校

音楽専科 松岡 敬子

## 「傾けよう 心の声に 子どもとともに」

～音楽の授業を通して子どもたちに伝えたいこと 心を育てる～

### ♪お母様方へ♪

- まずは、母ではなく、わたしの心をニュートラルに  
Q. どんなことをしていると、心がおだやかになりますか。

### ♪私から見た子どもの姿♪

- 青虫から、ちょうちょへ・・・でも、その前にサナギに  
サナギって、外から見たら動いていないけど、内面では劇的な変化をしているのです。
- 子どもは、みんないい子です。どんな子でも、よりよくなろうと成長したがついています。  
だからこそ、理想とのギャップに、もがいているのです。
- 子どもがつまずいていることは、何だろう？  
お医者さんが、病気を治すように、処置を考える。  
友達同士、先輩、後輩の中で育つこともあります。
- お母さん方も、ニュートラルな心で、冷静にじっくり、多角的に考えてください。



## ♪ 音楽の実践事例 ♪

- ・子どもの言葉に、振り回されない。言葉の裏側を読み取る。
- ・子どもの「きれい、つまらない」の裏側には、「できない、わからない」が隠されている。
- ・励ましの声かけももちろん必要ですが、体育、音楽、算数などは、できるようにしてあげないと根本的な解決にはならない。

私の指導法 1つの例として・・・

### ○リコーダー編

音がきれいにでない。何が原因か・・・。息づかいか指の問題かをわからせる。

### ○鍵盤ハーモニカ編

楽譜を見て、鍵盤を見て、指を動かす・・・1度に3つのことは、無理。

ご家庭でのご協力をお願いすることもあります。よろしくお願いします。

～音楽の授業を通して子どもたちに伝えたいこと～

【達成感を味わわせることによって、自己肯定感を育てる】

- ・様々な発表の場を経験することで、自己肯定感を高め、様々な本番に強くなる心を育てる。
- ・友達や異学年との交流を通して、礼儀正しくし、誰とでも仲良く協力できる社会性を身に付ける。  
(上級生は下級生の見本となることで、自分の役割を見だし、自己肯定感が高まる。)

## おうちの方へのお願い！

本番の後は、評論家にならず、褒めたり、励ましたりしてください！

- ・本番中に、何が起こったのか、本人はわかりません。終わったあとの、おうちの方の声かけで成功したことを実感し、嬉しさが倍増します。

ノーマスの小さくまとまった演奏がいいのか？

たくさんの人の前で、やりきった。それだけで、大成功。

失敗も大切な肥料です。失敗しない人なんていない。いかに、それを次につなげるか。

他の子どものほうが上手であった、力を出し切れなかった→

うちの子がダメだったのではなく、がんばりが足りなかった。次に、がんばればいい。

♪ありがとうございました♪

# 図工の授業を通して 子どもたちに伝えたいこと

## ～生きていくために必要な力～

図工を学ぶことの意味、それは描いたりものをつくったりするための知識や技術を身につけることにとどまらず、失敗を恐れずに試行錯誤したり、あれこれと思いをめぐらせながらつくり出していくプロセスの中にあります。

「失敗しても大丈夫！うまくいかなかったのなら、やり直せばいい。」失敗や迷いが豊かな想像力の源になります。活動を通して学んだ知識や技能がすぐに活かされるとは限らない。一つひとつの活動が時間をかけ学年を超えて非連続的な形で確かにつながっていきます。自分自身を知り、友達を理解し、その中で感じることや表現することを「生きる力」につなげていくことが何より大切なことだと考えます。予測不可能な時代を生きる子どもたちが他者や自然と共に生き抜く力を身につけることが必要です。

具体的にはイメージする力、伝え合う力、感じ取る力、創造的に問題を解決していく力などがあります。生きていくうえで欠かせないたくさんの力を引き出して、豊かな人間性を育てていきたいと思えます。

## ～自分と向き合う～

図工の教科目標は「豊かな感性や情操を養う」であり、心を豊かにすることです。絵を描いたり工作をしたりしますが、「自分の世界」がその軸となります。自分は何が好きで、何に憧れているのか。まずは自分を知るところから始まります。材料と関わりながら、一人一人が思いをもって表現方法を探り、自分らしいやり方で試行錯誤を続ける。その過程を通して、子どもは自分の表現や存在を肯定的に受け止められるようになってくる。また、同じ活動をしている友達の表現や存在にも肯定的に受け止められるようになっていきます。

## ～自分の中にたくさん『点』をつくらう～

造形的な創造活動とは、自分の思いを形や色で表したり、よさや美しさを感じ取ったりしながら、「自分の世界」をつくりだすことです。自分の世界をつくるということは難しいように思えますが、まずは好きな色は〇〇色から始まり、こういうモノが作りたい！さらには、こういう意図が伝わるように表現がしたい！と思いを深めていくことです。まわりにいる友達と関わることで新たな発想やアイデアが広がります。「あれはなんだろう？」という好奇心、「あっ、ひらめいた！」という直感を『点』として考えてみてください。創造活動を通して子どもたちの中にはいくつもの『点』が生まれます。その点がつながって線になり、自分の世界の道すじができていきます。様々な活動を通して『点』を積み重ね、世界を広げていけるような授業に取り組んでいます。

イメージと"こ"からくるのか

糸目合わせから

空間の構成を組み立ていく

うさぎ, 道, 扉

注目せよ!!  
フニポイント

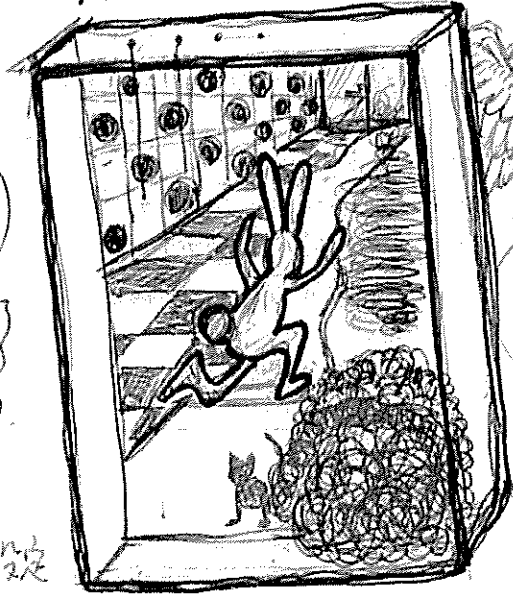
自分自身  
自分の姿を  
描いたフリ  
奥へ行く



場面設定

# BOX Art 構想画

~ 想像の世界を描こう



授業もシンプルに

内容

友達作品に

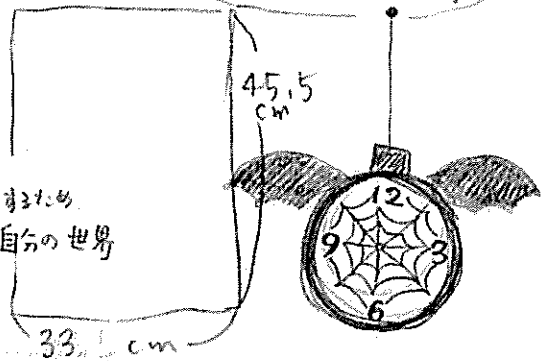
題名をつけよう

☆ 面白いものがあるものを描いて



平面サイズ

フリマサイズ



## Input

- 『どのような空間にしよう?』
- 『主人公は誰?』 『何をメインに描く?』

## Output

- 『○○が不思議でいいな』
- 『○○を自分もやしてみたい』

BOX  
ART

なぜ箱なの?  
空間認識を強化するため  
箱を区切られた自分の世界  
フチに穴をあけて  
ぶら下げたりでき  
半立体

自分にとっての大切なもの

私の視点, あなたの視点

この授業があることの意義

- 子どもに身につけたい能力
- 自分の世界をもつ大人になる
- 自分で自分が考えたことを信頼できるようになる

作品を発表する機会を設定する ← 日常を見直す

挑戦しよう!!  
描きかたは自由  
描きかたは自由  
見ながら見ながらかける?

箱作りのさいに

タイトルを決めてから始める?

それともみんなと金監賞して意見を聞いたあとに決める??

課題目に入る前には  
不月さがし